2022 年 4期 4課 旧約聖書の希望

【暗証聖句】
「信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクを献げました。つまり、約束を受けていた者が、独り子を献げようとしたのです・・・アブラハムは、神が人を死者の中から生き返らせることもおできになると信じたのです。それで彼は、イサクを返してもらいましたが、それは死者の中から返してもらったも同然です」ヘブライ人への手紙 11 章 17、19節

【日・わたしは神を仰ぎ見るであろう】

ヨブ記 19 章 25～27 節「わたしは知っている。わたしを贖う方は生きておられ、ついには塵の上に立たれるであろう。この皮膚が損なわれようとも、この身をもってわたしは神を仰ぎ見るであろう。このわたしが仰ぎ見る。ほかならぬこの目で見る。腹の底から焦がれ、はらわたは絶え入る。」

神様がサタンにヨブを苦しめることを許されたために、ヨブは子供を失い、多くの財産を失い、そして自らも思い皮膚病にかかって苦しみます。事情を何も知らないヨブは、なぜ主がこのような試練をお許しなるのか分からず苦しみます。友人たちはヨブが何か罪を犯したからだろうと言い、それがさらにヨブを苦しめました。しかしこのような状況の中で、ヨブは「この皮膚が損なわれようとも、この身をもってわたしは神を仰ぎ見るであろう」と、死を覚悟しつつ、神様に対する信仰を告白をするのです。これは復活信仰でもありました。この地上生涯においてどれほど辛い経験を通らされたとしても、復活して永遠の御国に入ることのできる喜びは、その辛さを消し去ってしまうのです。どんなに罪深いものであっても、主は赦してくださり、たとえ死んでもやがて目覚めの朝を迎えることができる。これは私たち神様を信じるすべての者に与えられた希望です。

ところで、ヨハネ 1:18 に「いまだかつて、神を見た者はいない。父のふところにいる独り子である神、この方が神を示されたのである」と書かれてあり、テモテ第一 6:16 には「唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住まわれる方、だれ一人見たことがなく、見ることのできない方です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメン。」とあります。

神様を見たものはまだ誰もいません。実際に見ようとしても、近寄り難い光の中に住まわれているので、見ることができません。復活の朝、どのような形で私たちは神様を仰ぎ見ることになるのか、本当に楽しみです。

【月・陰府の手から】

詩篇 49 篇に、富を頼りにするものの愚かさが、救いとの関係で描かれています。

詩篇 49:6～9「どうして恐れることがあろうか。財宝を頼みとし、富の力を誇る者を。神に対して、人は兄弟をも贖いえない。神に身代金を払うことはできない。魂を贖う値は高く、とこしえに、払い終えることはない。」
多くのお金があったとしても、その命を贖うことはできません。贖う値が高すぎて永遠に払い終えることができないからです。

詩編 49 編 12 節「自分の名を付けた地所を持っていても、その土の底だけが彼らのとこしえの家、代々に彼らが住まう所」
どれだけ広い土地を持っていたとしても、彼らの所有地はそこだけであり、御国の土地に代わるわけではありません。

詩編 49 編 18 節「死ぬときは、何ひとつ携えて行くことができず、名誉が彼の後を追って墓に下るわけでもない。」
死後の世界にこの世のものを何一つ持って行くことはできません。死ねばそこで終わりです。

ところが、神様を信じる者は違うのです。詩編 49 編 16 節に**「神はわたしの魂を贖い、陰府の手から取り上げてくださる。」**とあるように、たとえ死んで陰府に下っても、そこから神様が引き上げてくださいます。それはイエス様によって、命が贖われているからです。

【火・地の深い淵から】

詩篇 71 篇にも、復活の希望が語られています。その特徴は、詩篇記者はヨブと同様に様々な試練の中で、主の助けを求めつつ、信仰と希望を語り、最後にこの復活の信仰に至っている点です。

まず 4 節で、**「わたしの神よ、あなたに逆らう者の手から、悪事を働く者、不法を働く者の手からわたしを逃れさせてください」**と、困難な状況の中にあることを主に語ります。続く 5～7 節では、**「主よ、あなたはわたしの希望。主よ、わたしは若いときからあなたに依り頼み、母の胎にあるときからあなたに依りすがって来ました・・・あなたはわたしの避けどころ、わたしの砦」**ですと、過去を振り返りながら、いつも主により頼み、すがって来たことを告白し、今もまさに主の助けを必要としていることを告白します。9 節や 12 節では再び、**「老いの日にも見放さず、わたしに力が尽きても捨て去らないでください」**

「神よ、わたしを遠く離れないでください。わたしの神よ、今すぐわたしをお助けください」と、主に助けを求めます。
　後半になると、14 節では、**「わたしは常に待ち望み、繰り返し、あなたを賛美します」**。16 節では、**「わたしは力を奮い起こして進みいで、ひたすら恵みの御業を唱えましょう。」**と信仰を奮い起こし、18 節では**「わたしが老いて白髪になっても、神よ、どうか捨て去らないでください。御腕の業を、力強い御業を来るべき世代に語り伝えさせてください」**と、白髪になっても主の御業を伝えさせてくださいと、信仰者として最後まで生きますと決意を語ります。そして、20 節になると、**「あなたは多くの災いと苦しみをわたしに思い知らせられましたが、再び命を得させてくださるでしょう。地の深い淵から再び引き上げてくださるでしょう」**と、復活の希望を語るのです。

　人生は一本調子で進んでいくわけではありません。いい時もあれば悪い時もある。それを何度も繰り返しながら、歩んでいくものです。しかし、どのような人生であれ、復活の希望、天国の希望がある。これが神様を信じる者の人生なのです。

【水・あなたの死者が命を得】

イザヤ書 26 章 14 節「死者が再び生きることはなく、死霊が再び立ち上がることはありません」と書かれてありますが、同じイザヤ書 26 章の 19 節では、「あなたの死者が命を得、わたしのしかばねが立ち上がりますように。塵の中に住まう者よ、目を覚ませ、喜び歌え。あなたの送られる露は光の露。あなたは死霊の地にそれを降らせられます」と書かれてあります。つまり、永遠に滅びるものと、永遠の命を受け復活するものとに人は分かれていくということです。罪人である人間が、その罪のゆえに永遠に滅びるのは当然の結果です。驚くべきなのはむしろ、滅ぶべき人間の中に、永遠の命が与えられるものがいるという事実のほうなのです。塵に過ぎないものに神様の命が光の露のように降り注がれ、眠りから目を覚ますときがくる。これは私たちの理解を超えた出来事です。主に贖われ、永遠の命に救われる者にとって、死はもはや何の力もありません。「死は永久に滅ぼされ、すべての顔から涙と拭い去ってくださるのです」。

【木・塵の中に眠る者たち】

ダニエル書 12 章 1、2節「その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。その時まで、苦難が続く。国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかし、その時には救われるであろう。お前の民、あの書に記された人々は。多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入り、ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる。」

「その時、大天使長ミカエルが立つ」。これはキリストの再臨を表しています。これは苦難に終わりを告げ、キリストを信じる者たちが救出される瞬間です。そのとき、「多くの者が地の塵の中の眠りから目覚めます」が、その目覚めた者のうち、「ある者は永遠の生命に入り、ある者は永久に続く恥と憎悪の的となる」と書かれてあります。このことに関して、各時代の大争闘下 415 に次のように書かれてあります。

「墓が開かれる。「地のちりの中に眠っている者のうち、多くの者は目をさますでしょう。そのうち永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」(ダニエル書一二ノ二)。第三天使の使命を信じて死んだ者はみな、栄化されて墓から現われ、神がご自分の律法を守った者たちと結ばれる平和の契約を聞くのである。「彼を刺しとおした者たち」(黙示録一ノ七)、キリストの死の苦しみをあざ笑った者たち、そして、キリストの真理とその民とに対して最も激しく反対した者たちは、栄光をまとわれたキリストをながめるために、また、忠実で従順な者たちに与えられる誉れを見るために、よみがえらせられる。」

永遠の御国に救われるために復活するだけでなく、一部のキリストを激しく拒み、反対したものたちも復活します。それは自分たちが間違っていたことを思い知るためです。彼らは栄光に満ちたキリストのお姿と、忠実で従順な者たちに与えられる誉れを見、自分たちが間違っていたことを知ることになるのです。